

第10回 スーパーコンピューティング技術産業応用シンポジウム開催報告

1. 開催趣旨

スーパーコンピューティング技術産業応用協議会(産応協/ICSCP)は、これまでの HPCI 等の利用実績を踏まえ、産業界における HPC の更なる利活用拡大に向けて環境整備と様々な活動を展開していますが、その活動の一環として年に1度、テーマを決めてシンポジウムを開催しています。本年度は、昨今、幅広い産業分野においてデータサイエンスの重要性が急速に高まっている現状に鑑み、特に製造業におけるデータサイエンス活用をテーマとして、有識者の講演によりその理解を深めることを目的に開催いたしました。

2. 実施概要

テーマ: データが変革するものづくり～データサイエンスの最前線～

開催日時: 2017年12月13日(水)13:00～17:30

開催場所: トラストシティ カンファレンス・丸の内(丸の内トラストタワーN館11階)

参加者数: 147名

主催: スーパーコンピューティング技術産業応用協議会

後援: 文部科学省、経済産業省、一般社団法人 日本経済団体連合会、
国立研究開発法人 科学技術振興機構

協力: 東京大学生産技術研究所 革新的シミュレーション研究センター、
公益財団法人 都市活力研究所

協賛: 一般財団法人 高度情報科学技術研究機構、
一般社団法人 電子情報技術産業協会、
一般社団法人 日本自動車工業会、
一般社団法人 HPCI コンソーシアム、
公益財団法人 計算科学振興財団、
公益社団法人 関西経済連合会、
国立研究開発法人 理化学研究所 計算科学研究機構、
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所、
特定非営利活動法人 バイオグリッドセンター関西、

3. プログラム

主催者挨拶: 産応協運営委員長 恒川哲也

来賓挨拶: 文部科学省研究振興局長 関靖直 氏

経済産業省商務情報政策局情報産業課長 成田達治 氏

産応協活動報告: 産応協企画委員長 茂本勇

基調講演: データ科学がもたらす次世代のものづくり: 創造的設計と製造

情報・システム研究機構統計数理研究所

ものづくりデータ科学研究センター長 吉田亮 氏

講演1: フルードインフォマティクス 2.0～流体科学とデータサイエンスの融合～

国立大学法人東北大学流体科学研究所長 大林茂 氏

講演2: 材料計算科学者のインフォマティクス利用

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学情報社会基盤研究センター

准教授 本郷研太 氏

講演3: 製造現場向けデータ解析ソリューション

三菱ケミカルエンジニアリング株式会社システムソリューション事業部

河野浩司 氏

講演4: プラント運用最適化・異常予兆検知

日本電気株式会社セキュリティ研究所 河合孝純 氏

4. 当日概況

今回のシンポジウムは、選定テーマが昨今話題になっている、AIやビッグデータに関連する内容でしたので、前年を上回る147名の参加(事前登録158名)を得て、盛況に開催することができました。

5. アンケートからの振り返り

参加者アンケートの結果からは、シンポジウム全体として、参加者の満足感が感じられ、どの講演内容についても「大変分かり易かった」「大体理解できた」との回答が過半数を占めていました。また、会場や運営についても、概ね満足を頂いたと感じられました。

然しながら、参加者の人員構成を見ると、昨年度と同様に40代、50代の参加者が全体の2/3を占める状況にあり、参加者層の固定化傾向が見られます。今回のテーマは、産業界の広い分野で活用できる技術テーマであるデータサイエンスを取り上げ、参加者層の拡大を期待しましたが、思惑とは異なる結果となりました。また、業種としては、バイオ関係の参加者がなく、テーマ的には包括的なテーマであったにも関わらず、残念な結果となっています。

産応協の認知度については、産応協HPへの閲覧率が約6割、産応協の活動の認知度が約7割とかなり認知されてきていることが分かりました。

今後は、今回の結果を踏まえて、参加率が低い、若年層やバイオ系業界へのアピールを行い、より広い認知度と活動の汎用性を高める努力が必要であると考えております。